

分散型の学習 (5年生)

新型コロナウイルス感染拡大は歯止めがきかず、たいへん厳しい状態が連日続いています。学校ではさまざまな教育活動に制限がかかっているものの、授業の形態を工夫しながら学習を進めているところです。



5年生は家庭科の授業と英語の授業を分散型で行いました。学級を二分し少人数での学習形態をとって行いました。

家庭科のように実習を伴う活動は、ひとグループの人数を減らします。もちろん感染拡大防止が最大の目的ですが、ミシンを使い方を学習する時には、全員が待ち時間少なく、教師の目も行き届きメリットも大きいです。子どもたちの学習活動が十分に保障できます。



Go strait for three block.
Turn right(left).

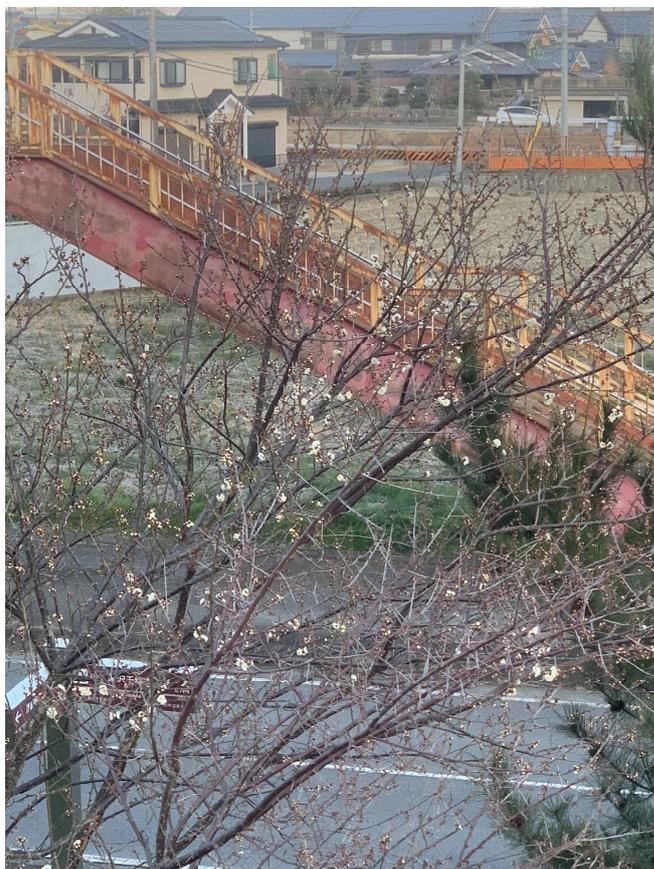


大勢で行うと密になることが予想される活動は、少人数で行います。教室を広々と使って、英会話を楽しみながら学習します。

どんなときも今ある現実を単に嘆くのではなく、自分たちにできる限りのことを精一杯考え、さまざまな工夫をすることは大きな意義があると考えています。

この厳しい局面を教職員と子どもたちがともに一丸となり、乗り切りたいと思います。

その営みこそが結果よりも重要なのだと考えています。



こんな寒い毎日であっても、歩道橋のたもとの梅の木は花をちらほら咲かせています。自然の力に勇気を感じながら、やがて来る春をみんなで待ちたいものですね。